鈴鹿	工業高等	 穿専門学校	開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授業	 科目	化学	
科目基礎			,		/				
科目番号	LIDTK	0024			科目区分		·般 / 必·		
授業形態		授業			単位の種別と単位数 履修単位: 2				
開設学科		材料工学	 赵		対象学年	2	.ID+II.	. 2	
開設期		通年	177		週時間数	2			
			 「高等学校化学」		7 11 - 1-11		wwk	 ライノート化学Vol.1,2 」	
教科書/教	材 ————	東京書籍	編集部(東京書籍)	参考書:「フォト	サイエンス化学区	録」数研	出版編	集(数研出版)	
担当教員		山崎 賢二	-						
到達目標	<u> </u>								
「化学基礎を理解し,	業の達成目 楚」および 関連する ポートを作	「化学」に関 問題を解くこ	する基本的事項を理 とができ,化学実験	理解し,物質の状態 を通して,実験の	, 物質の変化と平 方法や実験器具の	^Z 衡,有機们 D扱い方を身	と合物, 身に付け	無機物質に関する知識,原理や用語・るとともに,実験結果を整理して	
ルーブリ	<u> </u>								
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ			未到達レベルの目安	
評価項目 1	1		物質の状態に関 用語を理解し、 問題を解くこと	する知識,原理や 関連する応用的な ができる.	物質の状態に関 用語を理解し, 問題を解くこと	関連する基	原理や本的な	物質の状態に関する知識,原理や 用語を理解しておらず,関連する 問題を解くことができない.	
評価項目 2			物質の変化と平行 ,原理や用語を 応用的な問題を ・	新に関する知識 里解し, 関連する 解くことができる	物質の変化と平 ,原理や用語を 基本的な問題を	理解し、関	連する	物質の変化と平衡に関する知識 ,原理や用語を理解しておらず ,関連する問題を解くことができ ない.	
評価項目3			験器具の扱い方を	て,実験方法や実 を身に付けるとと を整理して実験レ きる.	化学実験を通し 方法や実験器具 けるとともに で実験結果を整 ートを作成でき	の扱い方を 助言を受け 理して,実	身に付	化学実験を通して,基本的な実験方法や実験器具の扱い方を身に付けられず,助言を受けても実験結果を整理することができない.	
学科の至	別達目標」	項目との関	 係		•			•	
教育方法									
概要		く授業の 1年に 見方や者	ねらい> 引き続き本科目の学 え方を身に付ける	習を通し,物質のまたこれらを身に	状態や物質の変化 付けることで 言	ごと平衡, そ 1学年におに	その理論	的な扱いを理解し, 化学的なものの 的技術者教育の基礎をつくる	
授業の進め	カ方・方法	<授業の						の月入門の日外市の金属とフィン	
	<u>属性・履</u> (-ィブラー <u>-</u>	く 解科く 取はた象のさ 所名大大意化のはら生ポら組業期学しなす位業正上人	項> 」には1年次の「る・語」には1年次の「る・語」には1年変化化学をできる。 「で学習すないではからのできます。」 「で学習すないできます。」 「できるできます。」 「できまする。」 「できまする。」 「できまする。」 「できまます。」 「できまする。」 「できままする。」 「できる。」 「できる。 「できる。 「	学基礎」と重複すまた試験時におりまた試験による教科の基礎となる教科をであり、1年次の知識の範囲と次の知識の範囲と次の知識を表してあり、1世紀の表別であり、1世紀の表別であり、1世紀の表別である。1世紀の表別では、1世紀の表別の表別では、1世紀の表別では、1世紀の表別では、1世紀の表別では、1世紀の表別では、1世紀の表別では、	る項目もあるが, ても電卓の持ち込 である. 「化学基礎」の習 けではその量は足. 評価割合は20% ,後期は課題提出 していない者には	その部分にある。 は回び必要である。 と中間試験である。 は、再れの等をある。 は、再れの等をある。	は省名. 前 である. ごある. 『 問題集 よよる ます場合	 ご出題し、目標の達成度を評価する.以上の場合に目標の達成とする. ることがある.授業中に演習問題を期後半の5週は化学実験を行う.本 新課程レッツトライノート化学」に 学年末試験で評価をし、学年評価にがある、再試験の成績が再試験の対域を再試験の対域で置き換えるも加味する. □ 実務経験のある教員による授業 	
	122 -		101 73/13			· · ·		- Annual Colored	
授業計画	<u> </u>								
		週	授業内容			週ごとの到	到達目標	Г	
		1:国	シラバスを用いて技物質の三態とその変	受業の概要,進め方 で化	で説明する.	1.物質の三態の変化を理解し、その変化に伴う教 入りを理解できる。 2.物質の沸点・融点を分子間力や化学結合と関係できる。			
前期	1stQ	2週	気体分子の熱運動と	<u>(</u> 圧力、飽和蒸気圧	と蒸気圧曲線	3.気体のほとを理解	3.気体の圧力が気体分子の熱運動と密接に関係す とを理解できる。 4.状態間の平衡と温度や圧力との関係について理		
		3週	気体の法則、気体の		5.ボイルの法則,シャルルの法則,ボイル・シャルルの法則について説明でき,必要な計算ができる。6.気体の状態方程式について説明でき,必要な計算ができる。たた,全圧と分圧を学習し,混合気体の平均分子量を計算できる。				

		4週	気体の状態方程式、理想気体と実在気体	6.気体の状態方程式について説明でき、必要な計算ができる。また、全圧と分圧を学習し、混合気体の平均分子量を計算できる。 7.理想気体と実在気体との違いを理解できる。
		5週	化学結合と結晶の種類、金属結晶の構造	8.イオン結合, 共有結合, 金属結合の性質について理解できる. 9.金属結晶の構造について理解し,原子半径,充填率, 密度等が計算できる.
		6週	イオン結晶の構造、共有結合の結晶の構造	10.イオン結晶の構造、共有結合の結晶の構造について理解できる.
		7週	分子結晶の構造、非晶質	11.分子間力と分子結晶の構造について理解できる. 12.非晶質の性質について理解できる.
		8週	前期中間試験	前期1~7週に学習した内容を理解し、諸問題を解くことができる。
		9週	前期中間試験返却・解説 溶解と溶液	13.溶解のしくみを理解し、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解できる。
		10週	化学実験ガイダンス	36.化学実験を行うにあたり必要な知識を身につける。 37.事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷など)を説明できる。
		11週	化学実験1	38.実験器具(電子天秤やガラス器具など)を目的と精度に応じて選択し正しく使うことができる. 39.試薬(粉体及び液体)の取扱いができる. 40.整理整頓により実験環境を適切に保ち,手順に従って安全に実験ができる. 41.実験条件やデータなどを正確に記録できる. 42.実験結果を表やグラフなどに見やすく整理できる. 43.適切な有効数字及び単位を用いて物理量を表すことができる. 44.観察・実験結果を座学などで学んだ内容と関連付けて説明できる.
		12週	化学実験2	38.実験器具(電子天秤やガラス器具など)を目的と精度に応じて選択し正しく使うことができる。 39.試薬(粉体及び液体)の取扱いができる。 40.整理整頓により実験環境を適切に保ち,手順に従って安全に実験ができる。 41.実験条件やデータなどを正確に記録できる。 42.実験結果を表やグラフなどに見やすく整理できる。 43.適切な有効数字及び単位を用いて物理量を表すことができる。 44.観察・実験結果を座学などで学んだ内容と関連付けて説明できる。
	2ndQ	13週	化学実験3	38.実験器具(電子天秤やガラス器具など)を目的と精度に応じて選択し正しく使うことができる。 39.試薬(粉体及び液体)の取扱いができる。 40.整理整頓により実験環境を適切に保ち,手順に従って安全に実験ができる。 41.実験条件やデータなどを正確に記録できる。 42.実験結果を表やグラフなどに見やすく整理できる。 43.適切な有効数字及び単位を用いて物理量を表すことができる。 44.観察・実験結果を座学などで学んだ内容と関連付けて説明できる。
		14週	化学実験4	38.実験器具(電子天秤やガラス器具など)を目的と精度に応じて選択し正しく使うことができる。 39.試薬(粉体及び液体)の取扱いができる。 40.整理整頓により実験環境を適切に保ち,手順に従って安全に実験ができる。 41.実験条件やデータなどを正確に記録できる。 42.実験結果を表やグラフなどに見やすく整理できる。 43.適切な有効数字及び単位を用いて物理量を表すことができる。 44.観察・実験結果を座学などで学んだ内容と関連付けて説明できる。
		15週	溶解と溶液、希薄溶液の性質	13.溶解のしくみを理解し,固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解できる. 14.凝固点降下,沸点上昇,浸透圧の定量的な取扱いを理解できる.
		16週	前期末試験	前期9~15週に学習した内容を理解し,諸問題を解く ことができる.
		1週	前期末試験返却・解説 希薄溶液の性質、コロイド	14.凝固点降下,沸点上昇,浸透圧の定量的な取扱いを理解できる。 15.コロイドを理解し,その溶液の性質を理解できる.
		2週	化学反応とエンタルピー変化	16.化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が、熱の発生や吸収となって現れることを理解できる.
後期	3rdQ	3週	へスの法則,結合エネルギー	17.ヘスの法則(総熱量保存の法則)について理解し ,反応熱が計算できる。 18.結合エネルギーについて理解し,反応熱が計算でき る。
		4週	化学反応と光、エントロピー	19.化学反応には、光を放出・吸収するものがあることを理解できる。20.吸熱反応が自発的に進む要因について理解できる。
		5週	電池	21.電気エネルギーを取り出す電池のしくみを酸化還元 反応と関連付けて理解できる. 22.一次電池, 二次電池について, その反応を説明できる.
				ම.

		6週		電気分	分解,電気分解	23.電気分解反応について, i 説明できる. 24.ファラデーの法則による					
		7週		反応逐	速度		25.反応速度が単位時間内にることを理解できる.	変化する物質の	の量で表され		
		8週		後期中	中間試験		後期1~7週に学習した内容をとができる.	を理解し,諸問	題を解くこ		
					中間試験返却 え応の速さと流		26.反応速度と濃度との関係を理解できる.				
	4thQ	10返	<u>司</u>	化学原	反応の速さと流	温度,触媒	27.反応速度と温度との関係を理解できる. 28.触媒の働きとその利用を理解できる.				
		11週 可逆			え応と化学平衡	衡,平衡定数	29.可逆反応と不可逆反応, および化学平衡の意味を理解できる. 30.平衡定数の意味を理解できる.				
4		12返	<u>司</u>	平衡	多動		31.学平衡の移動について, <i>i</i> に理解できる.	ルシャトリエの	の原理を中心		
		13退	<u> </u>	電離日	P衡と電離定数	数	32.弱酸・弱塩基の電離平衡や水の電離平衡について理解できる.				
		14返	<u> </u>	電離定数とpH、塩		の性質と反応	33.pH, 電離度, 電離定数が 34.塩の性質とその反応につい 理解できる.	数が計算できる. こついて,化学平衡の概念から			
		15週		緩衝液と緩衝作用、溶解度積			35.緩衝液と緩衝作用、溶解度積について理解できる.				
		16词	<u>司</u>	学年末試験			後期9~15週に学習した内容を理解し,諸問題を解く ことができる.				
モデルコフ	アカリキ	Fユ =	ラムの	学習	内容と到達	 [目標					
分類			分野		学習内容			到達レベル	授業週		
				代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、 用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明でき		3					

分類	分野 分野		学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
				代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、 用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明でき る。	3	
				洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	3	
				物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	3	前1,前2
				水の状態変化が説明できる。	3	前1,前2
				物質の三態とその状態変化を説明できる。	3	前1,前2
				ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明 でき、必要な計算ができる。	3	前3,前4
				気体の状態方程式を説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。	3	前3,前4
				イオン結合性物質の性質を説明できる。	3	前5,前6
				イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	3	前5,前6
	自然科学		化学(一般)	共有結合について説明できる。	3	前5,前6
		化学(一般)		自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3	前5
				金属の性質を説明できる。	3	前5
				電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。	3	前9
				質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。	3	前9
				モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。	3	前9
基礎的能力				酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)を説明できる。	3	
E-WED JUCYJ				酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。	3	
				電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。	3	後13,後1
				pHを説明でき、pHから水素イオン濃度を計算できる。また、水素イオン濃度をpHに変換できる。	3	後13,後1
				中和反応がどのような反応であるか説明できる。	3	
				中和滴定の計算ができる。	3	
				酸化還元反応について説明できる。	3	後5,後6
				イオン化傾向について説明できる。	3	後5
				金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。	3	
				ダニエル電池についてその反応を説明できる。	3	後5
				鉛蓄電池についてその反応を説明できる。	3	後5
				一次電池の種類を説明できる。	3	後5
				二次電池の種類を説明できる。	3	後5
				電気分解反応を説明できる。	3	後6
				電気分解の利用として、例えば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。	3	後6
				ファラデーの法則による計算ができる。	3	後6
		化学実験	//	実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	3	前10
			化学実験	事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	3	前10

			測定と測定値の取	なり扱いができる。			3	前11,前 12,前13,前 14
			有効数字の概念・	・測定器具の精度	が説明できる。		3	前11,前 12,前13,前 14
			レポート作成の手	F順を理解し、レ	ポートを作成できる。	,	3	前11,前 12,前13,前 14
			ガラス器具の取り)扱いができる。			3	前11,前 12,前13,前 14
			基本的な実験器具 ができる。	具に関して、目的(に応じて選択し正し	く使うこと	3	前11,前 12,前13,前 14
			試薬の調製ができ	きる。			3	前11,前 12,前13,前 14
			代表的な気体発生	上の実験ができる。			3	前11,前 12,前13,前 14
			代表的な無機化学	学反応により沈殿	を作り、ろ過ができ	3 .	3	前11,前 12,前13,前 14
評価割合								
	試験	課題	相互評価	態度	発表	実験レポ	<u>- </u>	合計
総合評価割合	64	20	0	0	0	16		100
#7 F		20		ام	0	1.0		1100

	試験	課題	相互評価	態度	発表	実験レポート	合計
総合評価割合	64	20	0	0	0	16	100
配点	64	20	0	0	0	16	100